

麻しん対策で接種率が上がらなかった自治体の ポイント(厚労省調べ)

第3、4期共通

- 未接種者が把握できていない: 予防接種台帳の未整備
- 繰り返しの個別通知を行っていない
 - 財政上の問題で不可能
 - 必要と感じていない
- 市町村担当者の認識不足
- **学校との連携が不足・困難**
 - 「学校における麻しん対策ガイドライン」が参考にされていない
 - 予防接種は保健行政の仕事であるという学校側の意識
 - 市町村の担当者が、学校との連携の必要性を感じていない

Company Name

2008年麻しん対策総括(厚労省)

- 市町村の実情は、まさに千差万別
- 接種率の高い自治体は、**実情に合わせて様々な工夫をこらし、関係部署とよく連携している**
 - ・自治体: 個別通知 ⇒ 未接種者の把握 ⇒ 未接種者への繰り返しの勧奨(可能な限り、顔の見える勧奨を)
 - ・学校: 顔の見える確認・勧奨の実施場所 ⇒ 学校における流行の抑制に直結する
- **地域の実情に合わせた最大限可能な対応を**
実情に応じて講ずることが必要

Company Name